

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ファミリーマート、“療養食”を本格的に販売へ」
  - 2) 「日本初の“ムース”デリ&カフェが銀座に！」
  - 3) 「ハンドソープで丸洗いOK KDDIのママ向けスマホ」
- 

1) 「ファミリーマート、“療養食”を本格的に販売へ」

ファミリーマートは、高齢者や食事制限が必要な消費者に向けた「メディカルフーズ＝療養食」を本格的に販売していくと発表した。高齢化社会の進行で、糖尿病や高血圧など生活習慣病患者数が増えていることを踏まえ、コンビニエンスストアが在宅療養の受け皿となる必要性が高まると考えた。

同社は今年9月、農林水産省が普及・推進に取り組む介護食品「スマイルマーク」の利用許諾を取得。病院内や病院近隣の14店舗で療養食を販売している。今後、取り扱い店舗を拡大し、2017年度までに200店舗に拡大する。経口用濃厚流動食や腎疾患患者向けのご飯など取り扱い品目は約180種類で、専用の売り場を設置して販売促進に取り組む。

老々介護など様々な高齢化社会の問題があげられる中、自宅の近くにあるコンビニで療養食が購入できるとなれば在宅介護する側の負担軽減にも繋がる。取り扱い品目も多く、日常的に利用しやすい。病院近隣だけでなく、高齢者が多いがスーパーが近くにないような地方への拡大を期待したい。

---

2) 「日本初の“ムース”デリ&カフェが銀座に！」

12月17日、日本初の“ムース”デリ&カフェ「ニューディッシュ ムース デリ & カフェ (nu dish Mousse Deli & Cafe)」が東京・銀座にオープンする。同店は、予約がとれないフレンチとして有名な「レストラン オギノ」のオーナーシェフ、荻野伸也が監修するデリ&カフェ。日本初で初めて、ソースやパイの具材に“ムース食”を使用したメニューを提供する。

“ムース食”は、日清医療食品株式会社が病院・社会福祉施設での食事サービスの一つとして提供しているもので、噛む・飲み込むことが困難な高齢者や障害のある方々に向けた、見た目がきれいでおいしく且つ安全に“噛む・飲み込む”ことを可能にした新たな食品。近年、世代を超えた食べやすさが魅力の「ユニバーサルデザインフード」として注目を集めており、栄養素をしっかりと効率よくとることができるという点も魅力だ。

“ムース食”と様々な旬の野菜を使った週替りのメニューは、オリジナルのランチボックスを作ることができるカジュアルスタイル。主食から1つ、冷菜と温菜の中からそれぞれ2つずつを選択できる。監修を務める荻野伸也が厳選した野菜を用いた惣菜や、「レストラン オギノ」でも人気の「パテ・ド・カ」が並び。

どの惣菜を選んでもドリンクとセットで1200円（税込）と、手軽にバラエティ豊かなランチを楽しめるため、平日は朝食を抜きがちな女性や時間のないビジネスマンのランチに、休日は銀座の観光にもぴったりだ。

まだ一般に馴染みの少ないムース食を、予約の取れない店の味で体験することができれば、認知度も上がり今後の開発にも拍車がかかるのではないかと思う。昔に比べて随分と介護食の種類も増え質も良くなっているが、自分たちが高齢者になるころには普通の食事と変わらないものになっているのではないか。将来どうなっているか楽しみだ。

---

### 3) 「ハンドソープで丸洗いOK KDDIのママ向けスマホ」

KDDI (au) は3日、市販のハンドソープで丸洗いできるママ向けスマートフォン「DIGNO rafre(ディグノ ラフレ)」を11日に発売すると発表した。

スマホは手の汚れや化粧品が付きがちで、小さい子供が口に入れる可能性もある。KDDIはスマホを清潔に保ちたい育児中の女性などの需要を取り込みたい考えた。

イヤホンなどを差し込む部分の防水機能を従来よりも高めたほか、水切れを良くして、洗浄時に生じるかすが残りにくくした。また、料理中にスマホでレシピを見ながらぬれた手で操作したり、風呂場で動画を楽しんだりできる。

固形せっけんや、中性洗剤の使用は保証の対象外という。

2年契約を前提に機種変更や他社から乗り換えをした場合の実質負担額は5400円、新規契約は2万1600円となる予定。

スマートフォンの画面は手や顔に触れることが多いため雑菌がつきやすく、不潔だとよくきく。毎日手にするものはどうしても汚れが気になってしまうので、小さなお子様をもつお母さん以外にも丸洗いできるのは嬉しいことだ。この技術がほかのスマートフォンにも広がってくれれば嬉しい。